

平成 21 年 8 月 14 日

会社名 **株式会社 CSKホールディングス**
 代表者名 代表取締役社長 福山 義人
 問合せ先 常務執行役員財務経理部長 熊崎 龍安
 電話番号 03-6438-3030
 (コード番号 9737 東証 第一部)

平成 22 年 3 月期 第 1 四半期連結決算の要旨

● 前年同期比サマリー

(単位:億円)

	2007/6	2008/6	2009/6	前年同期比増減	
				増減額	増減率
売上高	680.9	511.2	418.7	△92.5	△18.1%
営業利益	175.8	△37.5	△133.9	△96.4	-
営業利益率	25.8%	△7.3%	△32.0%	△24.7%	-
経常利益	183.6	△30.0	△127.9	△97.9	-
四半期純利益	131.8	△32.3	△140.4	△108.0	-

売上高 及び 営業利益 :

- 売上高は、証券事業及びプリペイドカード事業においては堅調に推移し、前年同期比で増収となりましたが、情報サービス事業においては、金融・保険や自動車関連等の製造系を中心に 21.1%減少したこと、また金融サービス事業においても経済環境の低迷を受けたこと等により 418.7 億円（前年同期比 18.1%減）となりました。
- 営業利益は、証券事業においては、前第 1 四半期は 14.0 億円の営業損失でしたが、前期に実施したコスト構造の改善が功を奏し当第 1 四半期は 5.6 億円の営業利益（前年同期比 19.7 億円増益）となりました。情報サービス事業においては、販売費及び一般管理費の削減を推進いたしました。売上高の減少による影響で営業利益が前年同期比で 10.3 億円減少いたしました。金融サービス事業における不動産証券化事業においては、既存の保有物件売却に向けて鋭意努力してまいりましたが、今般の厳しい環境のもと売却の進捗状況を勘案し、棚卸資産評価損 111.2 億円を計上したことにより連結全体では 133.9 億円の営業損失（前年同期 37.5 億円の営業損失）となりました。

経常利益 及び 四半期純利益 :

- 経常利益は、営業損失の要因に受取配当金やカード退蔵益等の営業外収益及び営業外費用を加え 127.9 億円の経常損失（前年同期 30.0 億円の経常損失）となりました。
- 四半期純利益は、経常損失に、特別利益 8.1 億円と投資有価証券売却損 6.5 億円や減損損失 4.8 億円等の特別損失 17.4 億円、法人税等により 140.4 億円の四半期純損失（前年同期 32.3 億円の四半期純損失）となりました。

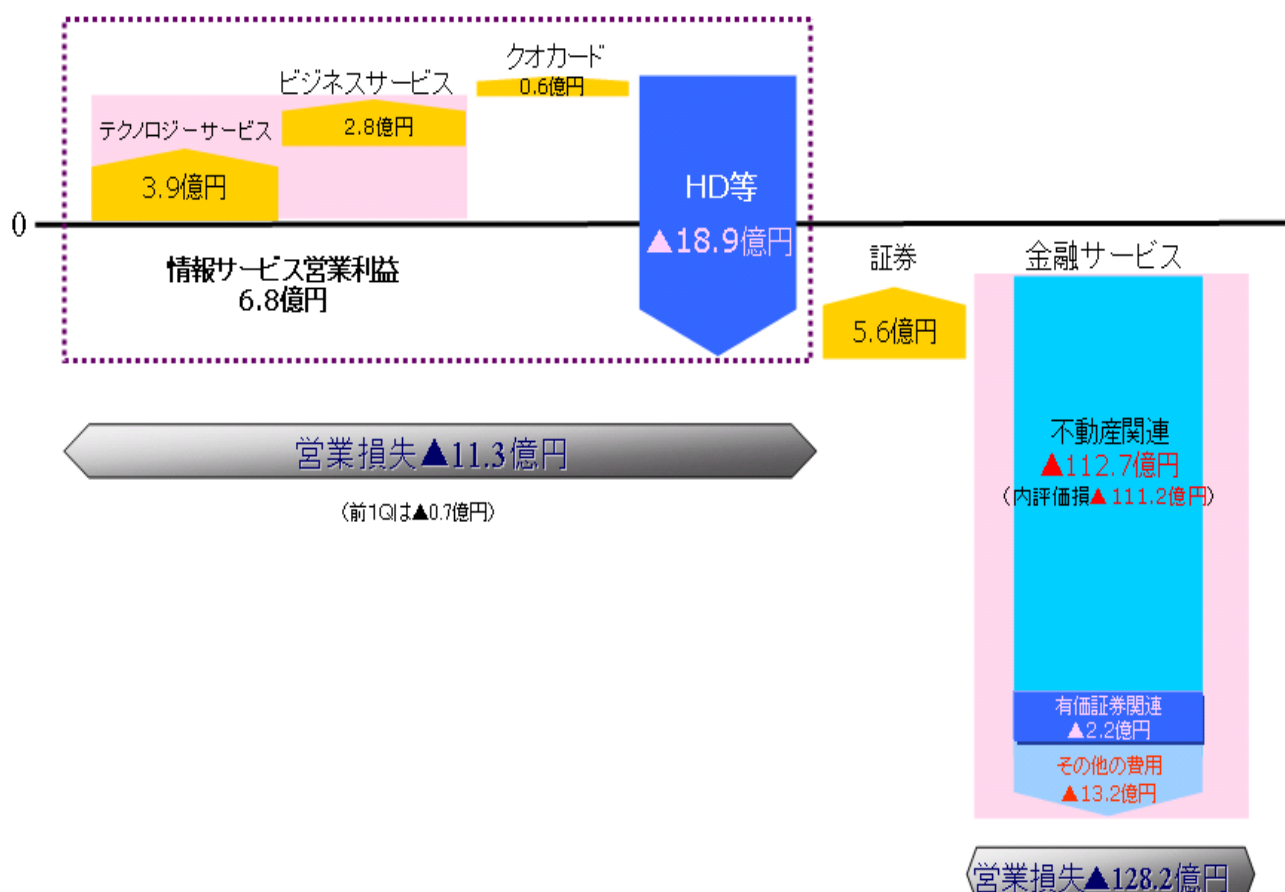
● セグメント別 業績（連結）【前期比較】

(単位:億円)

	2008/06(1Q)		2009/06(1Q)		増減	
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益
情報サービス	463.5	17.1	365.7	6.8	△ 97.7	△ 10.3
テクノロジーサービス	323.7	13.9	249.3	3.9	△ 74.3	△ 10.0
ビジネスサービス	139.7	3.1	116.3	2.8	△ 23.3	△ 0.3
カード	7.0	0.6	7.2	0.6	0.2	△ 0.0
HD等	△ 15.8	△ 18.5	△ 10.6	△ 18.9	5.2	△ 0.3
小計 (情報サービス+カード+HD等)	454.6	△ 0.7	362.3	△ 11.3	△ 92.3	△ 10.6
証券	47.9	△ 14.0	50.9	5.6	3.0	19.7
金融サービス	8.6	△ 22.7	5.3	△ 128.2	△ 3.2	△ 105.4
連結	511.2	△ 37.5	418.7	△ 133.9	△ 92.5	△ 96.4

※セグメント間取引の売上を含んでおります

● 2010年3月期（第1四半期決算） 連結営業損失の内訳



情報サービス事業

- 売上高は、テクノロジーサービスにおいては、電気・精密及び自動車関連等の製造系向け開発案件の減少に加え、前第1四半期において、銀行・信託の統合における再構築案件やクレジットファイナンス向け機器販売等の大型精算があった影響により減少いたしました。ビジネスサービスにおいては、フルフィルメントサービスや証券業向けの売上高が増加いたしました。コンタクトセンターや製品検証サービス等の売上高が減少し、情報サービス全体の売上高は365.7億円（前年同期比21.1%減）となりました。
- 営業利益は、テクノロジーサービス、ビジネスサービス共に原価・販売費及び一般管理費の削減を行いました。顧客のIT投資抑制など受注環境が厳しく売上高・粗利益が減少し営業利益は6.8億円（同60.2%減）となりました。

金融サービス事業

- 金融サービス事業の不動産証券化事業において、既存の保有物件売却に向けて鋭意努力してまいりましたが、今般の厳しい環境のもと売却の進捗状況を勘案し、棚卸資産評価損111.2億円を計上したこと等により、売上高は5.3億円（前年同期比37.7%減）、営業損失128.2億円（前年同期22.7億円の営業損失）となりました。

証券事業

- 売上高は、国内景気への回復期待等を背景に日経平均株価も上昇基調となり、委託手数料等の受入手数料や株式及び債券のトレーディングに係る収益が増加し50.9億円（前年同期比6.3%増）となりました。
- 営業利益は、売上高の増加に加えて販売費及び一般管理費における取引関係費や事務費等を前年同期比で約15.6億円削減し、5.6億円（前年同期14.0億円の営業損失）となりました。

プリペイドカード事業

- 店頭及びギフトによるカード発行量は共に前年よりも若干減少しましたが、売上高は機器の販売が貢献し7.2億円（前年同期比2.9%増）となりました。
- 営業利益は、カード発行量の減少による影響を受けたものの、機器の販売による粗利益でカバーし、0.6億円（同1.9%減）となりました。なお、営業外収益としてカード退蔵益等を計上しており、当事業に関する経常利益は3.6億円（同17.1%増）となっております。

● 資本増強に関する状況

平成21年7月2日に発表いたしました「資本増強の基本合意に関するお知らせ」にありま
すとおり、当社及びACA株式会社（平成21年8月1日にアント・コーポレートアドバイザ
リー株式会社より社名変更）（以下「ACA」といいます。）は、ACAをスポンサーとす
る当社の資本増強について平成21年7月2日に「基本合意書」を締結しており、現状におい
ては、その最終契約の締結に向けて協議を進めております。なお、資本増強に伴う臨時株主
総会については9月下旬を予定しており、臨時株主総会において議決権を行使することがで
きる株主を確定する基準日につきましては、平成21年8月15日となっております。

<ACAとの基本合意の概要>

1) 優先株式の発行

当社は、平成21年9月末までに、ACAが設立する特別目的会社（SPC）を引受先と
して150億円を超える規模の資本増強を行うことで基本合意をいたしました。ACAによ
る資本増強は、当社普通株式への転換権付き優先株式によって行われます。将来の普通株
式への転換（希釈化）により、当社の議決権の過半数の取得が可能な優先株式を検討して
おりますが、その種類・内容等の詳細につきましては決定次第速やかに公表いたします。

優先株式発行による手取資金は、情報サービス事業への経営資源集約による構造改革、
今後の成長戦略に必要な設備投資・研究開発投資に充当予定です。

2) 不動産リスクの遮断

ACAの協力を得ながら、不動産証券化ビジネスからの早期撤退を図ります。同事業の
早期撤退にあたっては、特別損失の発生の可能性がございますが、具体的な撤退方法、損
失額につきましては、最終契約の締結後速やかに公表いたします。

3) その他

最終契約の締結に向けては下記の前記条件を満たすことが必要となります。

- ① 当社とACAが提案する事業計画（当社の資本政策及び取引金融機関に対する返済
計画を含む）が取引金融機関にご同意いただけること。
- ② ACAが実施するデューディリジェンスの結果、実行困難と判断される問題が発生
しないこと。
- ③ 法令等に基づき最終契約締結までに必要となる諸手続が完了すること。

また、上記①～③の条件を満たすことに加え、優先株式の発行については株主総会に
おける特別決議事項であることから、平成21年9月下旬開催予定の臨時株主総会におい
て優先株式発行に関する議案が承認されることが必要となります。

本基本合意をはじめとした諸施策の着実な実行がCSKグループの再生に向けた第一歩で
あり、企業価値の早期回復を図ることと、「新たなサービスを創造し続け、サービスプロバ
イダーへの転換」を一層推し進めることが当社グループの中長期的なミッションであり、多
くのステークホルダーの皆様から一層のご理解と末永いご支援を頂けるよう、不断の努力を
続けてまいります。

● 期末の見通し

当社グループは、平成21年7月2日に発表いたしました「資本増強の基本合意に関するお知らせ」のとおり、A C Aと資本増強について基本合意しており、財務基盤の安定化に向けた課題である「銀行支援による資金の安定化」「資本の増強」「不動産リスクの遮断」に取組み、現在最終契約締結に向けて予定通り進捗しておりますが、業績の回復に向けたアクションプラン等の検討をA C Aを交えて進めており、その結果を踏まえた業績予想につきましては最終契約締結次第、速やかにお知らせいたします。

以 上